

STOP！事故増加

宮城県仙台第三高等学校 40班

背景と目的

高齢化に伴い、日本では高齢者ドライバーの数及び高齢者の自動車事故の件数も増加している。
そのような状況からか、高齢者に対する無慈悲な言葉までも飛び交っている。
我々は高齢者も現役世代も安心できるクルマ社会を形成するために、この探究を始めた。



解決案・調査方法

①サポートカー限定免許

サポートカーとは安全運転支援装置(消灯被害軽減ブレーキ・ペダル踏み間違い時加速抑制装置)が搭載されたクルマのこと

- ・サポカー利用者への国からの優遇措置が整っていないこと
- ・車の種類がとても少ないこと
- ・時速80kmを超える自動ブレーキは効かないこと

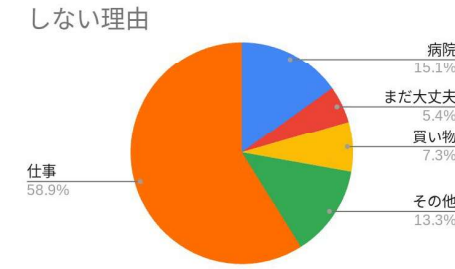
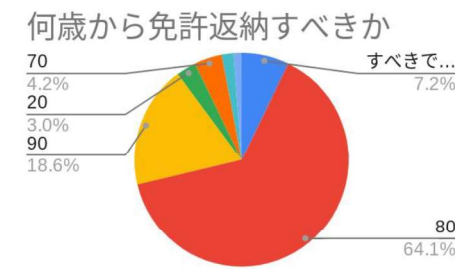
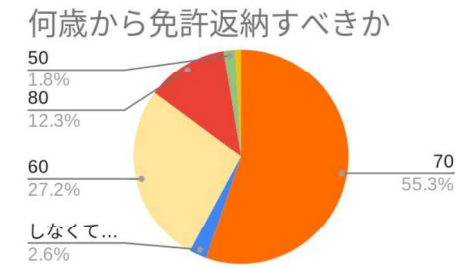
サポートカー限定免許は普通自動車免許と比べて、有用性がないためサポートカー限定免許の普及を目指す取り組みは却下した

②免許返納

現在、内閣府は高齢者事故の増加を防ぐために、自動車免許の自主返納を促す対策を行っている。これらが高齢者にどのように影響しており、免許返納に対する考え方がどのようなものなのかを調べるために以下のアンケートを実施した。

高校生(114人)と高齢者(172人)にアンケートを実施

- ①免許返納を何歳ぐらいで行うべきか
高校生の理想の年齢と高齢者の現実の年齢を比較
- ②その理由
免許返納をしづらいと感じるのはなぜか



高校生のアンケートでは

70代が理想の年齢

高齢者のアンケートでは

80代が理想の年齢

免許返納ができない理由

仕事が半分を占める

まとめ・今後の展望

高校生に比べて高齢者は免許返納を考える年齢は高かった。理由としては主に2つで、①クルマを運転できる自信があるからと、②生活に必要な不可欠だから、というものだった。そのような結果から、現状のままでは高齢者に免許返納を進めていくことは難しいと考えた。

今後は高齢者に免許返納を進めていくのではなく、高齢者が安心して自動車を運転できるような環境づくりを中心として、高齢者に安全運転を呼びかけるようなポスターをまずは作成していきたい。

結果・考察

アンケート結果から

- ・高齢者にとって自動車免許はまだ必要不可欠(仕事や病院、買い物などで必要)
- ・高校生にとっての免許返納と高齢者にとっての免許返納で重みが違う

現状のままでは高齢者の免許返納を進めていくことは難しいと考えた

↓

- ・現役世代も高齢者も安心して運転できる
- ・免許返納なしで高齢者の事故を減らす

これらを達成するために、高齢者に安全運転を呼びかけるポスターを作成

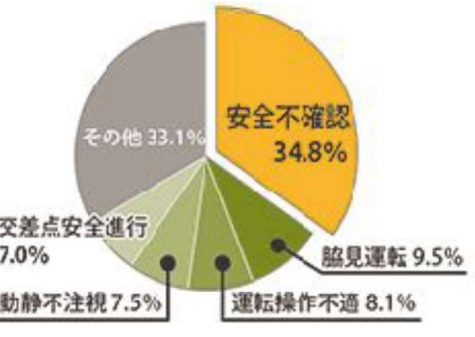
高齢者安全運転ポスター

グラフより高齢者は安全不確認、脇見運転、運転操作不適を起因とする事故が多いことがわかる。そのため

- ・安全確認を怠らない(一時不停止の確認など)
- ・周囲の人の話に耳を傾ける
- ・慌てず焦らず余計なことを考えない

この3つを中心に高齢者に安全な運転を呼びかけられるようなポスターを作成していきたい。

75歳以上のドライバー(第1当事者/原付以上)の法令違反別の交通事故割合(2019年中)



警察庁交通局 令和2年2月「令和元年中の交通事故の発生状況」

ポスター制作中



参考文献

- 1)平成30年版犯罪白書(法務省)
- 2)サポートカー限定免許について(警察庁)
- 3)サポカーのwebサイト
- 4)令和元年交通安全白書(内閣府)
- 5)高齢ドライバーの重大事故を防ぐには(東京海上日動)